神明コミュニティだより

№１０

Ｈ２０．３．４
鯖江市神明小学校

Community ： 深い結びつきをもった共同体。

平成２０年が明けて、早くも３月になりました。昨年末の９号発行後小休止していました『神明コミュニティだより』ですが、当然のことながら学校では毎日教育活動が続けられ、さまざまな出来事が起こっています。今年度も後１ヶ月。せっせと情報発信していきます！

○ インフルエンザ流行

インフルエンザの流行に関して、ご心配をおかけしました。
１月半ばから一人二人と出ていたインフルエンザの罹患者が、下旬にきて一気に増加。とうとう１月２５日には４年生と５年生の３学級が学級閉鎖の措置をとるまでになりました。その後も、１年生、２年生のそれぞれ１学級が学級閉鎖になりましたが、２月下旬に来てようやく終息しました。元気な子どもたちがいてこその学校です。本当によかったと、胸をなで下ろしています。

学校という集団生活の場にいると、インフルエンザに限らずこうした感染症の発生にはとても気をつかいます。今回感じたのは、なによりの予防には、体力と免疫力の増強に日ごろから努めることが大切ではないかということです。ワクチンができてもさらにそれを上回る強力なウィールスが発生するというイタチごっこの病原菌との戦い。それに打ち勝つにも、食事や睡眠などの規則正しい生活習慣を身に付けさせてやることは、お子さんの将来への最大のプレゼントだと思います。小さいうちに、夜更かし、偏食から卒業させてあげましょう。

○地域・学校協議会開催　１月１７日

このお便り発行のきっかけになった「地域・学校協議会」の２回目の会議が１月１７日に行われました。協議会の方々には、会議だけでなく、学校公開日等に神明小学校の様子を見て頂いています。そうした中で感じ取った神明小学校の実態と、保護者と子どもたちへのアンケートの集計結果から、本校の学校運営のあり方について話し合われました。

次回は、次年度の学校運営についての話し合いが行われる予定です。

○キッズデザイン「子どものまち」づくり事業　１１月１８日、１２月９日

「子どもの安全確保」「子どもの活動の場の提供」「子どもが利用しやすいまち」をコンセプトに地域住民と共働して「子どものまち」づくりを推進するためのワークショップが開催されました。子どもたちの視点を住みよい町づくりに生かそうという県のモデル事業です。本校からは５年生の代表５人が参加しました。行政の担当者や区長さんなど地域の代表者に混じってのワークショップでしたが、大人が気付かなかった視点で町を再点検し、意見を出してくれました。子どもたちに優しい町は、すべての人に優しい町になることでしょう。

溝のふたの穴に、低学年の子のくつの先が引っかかって危ないことがあったよ。

帰る時刻が分かるように公園に時計があるといいと思います。

○　オールシーズン、スポーツシーズン。

寒いからって縮こまっているのは猫ぐらいのもの。子どもたちは、いつだって運動にチャレンジしています。

鯖江市は「体操の町」ということで器械運動に力を入れていますが、１月は体育の授業でも器械運動に取り組みました。各学年でマット・鉄棒・跳び箱の発表会が開かれました。（学校公開日に保護者の方に見て頂く予定でしたが、今年はインフルエンザ流行により一斉の開催はなくなりました。）また、２月１日には市器械運動交歓会が開催され、５・６年の代表選手が参加し演技を披露しました。１年生から参加できる県学童体操競技会（１７日）にも本校から多くの子どもたちが出場しました。チャレンジ精神旺盛で練習にも熱心に取り組む意欲的な子どもたちが多いことを嬉しく思います。

２月は、なわとびのシーズンでもあります。休み時間にも練習している子どもたちが多いので、廊下を通るのがままならないことも。各学年の縄跳び大会では、保護者の方の応援を受けて、どの子も自己ベスト目指してがんばったようです。また、市のなわとび大会（２４日）に参加し、個人競技のほかに大なわとびに挑戦して仲間との絆を深めた子どもたちもいました。